

ハウスミカンにおけるミカンキイロアザミウマの有効薬剤						
<p>[要約] 11月加温型のハウスミカンにおけるクロルピリホス水和剤およびアセタミプリド水溶剤、ニテンピラム水溶剤、アラニカルブ水和剤の着色期1回散布は、ミカンキイロアザミウマの被害を6～10日間抑える。</p>						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
平成12年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

近年、ハウスミカンでミカンキイロアザミウマが多発生し、問題となっている。本種に登録のある薬剤の防除効果と残効期間を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ① 11月加温型ハウスミカンにおけるクロルピリホス水和剤 1,000倍およびアセタミプリド水溶剤 2,000倍、ニテンピラム水溶剤 1,000倍、アラニカルブ水和剤 1,000倍の着色期1回散布は、ハウスミカンのミカンキイロアザミウマの被害を6～10日間抑える(図1)。
- ② この散布により幼虫および成虫の果実への寄生が散布後6～10日間低く抑えられる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- ① 薬剤の使用に当たっては農薬安全使用基準を厳守する。
- ② 飛来状況によって薬剤の残効期間が異なるので、青色または黄色粘着板による発生予察を活用する。
- ③ 被害果実は収穫後、傷を付けないようにできるだけ丁寧に取り扱い、極端な高温や多湿をさける(図3参照)。

[具体的データ]

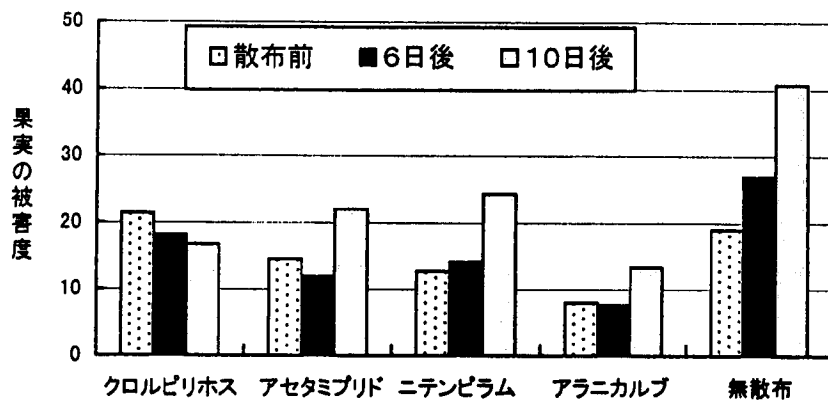


図1 薬剤散布後のアザミウマ類による果実被害度の推移

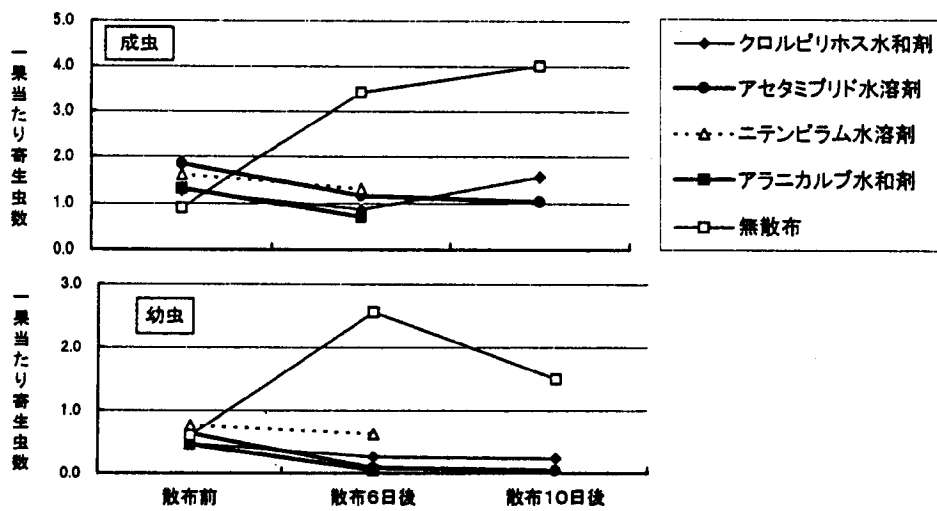


図2 薬剤散布後のアザミウマ類虫数の推移

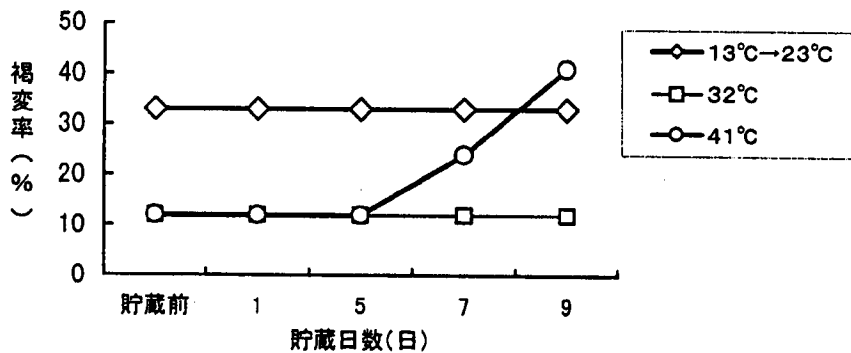


図3 収穫果実の貯蔵温度の違いとミカンキイロアザミウマ被害果の褐変率

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査
 予算区分：県単
 研究期間：平成12年度（昭和58年～）
 研究担当者：中村吉秀、大久保宣雄
 発表論文等：九州農業研究第63巻（印刷中）